

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直しつつある」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直しつつある。観光は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある	
生産活動	弱含んでいる	弱含んでいる	
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	
観光	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超となっている	「下降」超となっている	
住宅建設	弱含んでいる	弱い動きとなっている	
公共事業	前年を下回る	前年を下回る	

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある」

スーパー販売は、家計の節約志向の高まりがみられるものの、商品単価の上昇などから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、イベント開催に伴う人流の回復などから販売が増加し、持ち直している。乗用車販売は、需要が引き続き堅調であることから、緩やかに持ち直しつつある。ドラッグストア販売は、医薬品販売が好調なことなどから、前年を上回っている。百貨店販売は、フォーマル需要や春物に動きがみられるなど、緩やかに持ち直している。家電販売は、高性能・高単価な白物家電の需要の高まりがみられ、緩やかに持ち直しつつある。ホームセンター販売は、家計に節約志向がみられ、来店客が減少しているなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

このように、個人消費は全体として、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 値上げの影響により、買上点数の減少など生活防衛意識の高まりは感じられる。また、来店客数が前年を上回っているが、複数店舗の買い回り傾向が強まっている可能性もある。(スーパー)
- 人流の回復、観光客の増加に伴う来店客数の増加がみられ、弁当やおにぎり、飲料水といった商品が好調となっている。(コンビニエンスストア)
- 様々な物の値段が上昇している状況にあるが、乗用車は生活必需品という側面もあるため、買い控えのような購買意欲の減退は感じられず、受注は順調である。(乗用車販売店)
- 商品値上げから売上は前年を上回るが、家計の節約志向を背景として、セールを行うなど競合が増している。化粧品は、値上げなどにより屋内マスクの規制緩和後も動きが鈍い。(ドラッグストア)
- 中間層が購入する福袋や新春のセール品は、販売価格上昇から値ごろ感が薄れ、販売が伸び切らなかった。一方、外出機会の増加から、春コート、バッグが前年から大幅増となった。(百貨店)
- 電気料金の値上げを受けて、高価であっても、より優れた省エネ性能を備えた冷蔵庫や洗濯機が売れている。(家電量販店)
- 催事とシネマを目的とした来場者の増加から、飲食店売上は前年を上回って推移している。(不動産業)

■ 生産活動 「弱含んでいる」

生産活動は、弱含んでいる。

- 部品の供給制約により、納期が翌年にずれこむ案件が多いほか、納期を示せず契約が難航するケースがある。また、見積りから発注までに時間を要すると、当初見積りから部品価格が大きく上昇し、再見積りの価格も引き上げざるを得ない結果、投資を見送る企業もみられる。(生産用機械)
- 需要については前期から大きな変化はなく、自動車向けが、減産による影響により前年を下回る状況が継続している。(鉄鋼)
- コンビニ・飲食店向け出荷は、コロナ前には及ばないが回復しつつあり、生産量が増加している。(食料品)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は横ばいとなっており、完全失業率は前年を下回るなど、雇用情勢は、持ち直しつつある。

- 新規求人数は、引き続き増加傾向にある。宿泊業で、全国旅行支援や水際対策の緩和に伴い、旅行需要が旺盛であることや、サービス業で、人流の増加により清掃や警備の需要が増加したことから、求人が増加した。(公的機関)
- 新規求職者数は、感染者数の落ち着きによる就職活動の再開により増加に転じたものと考えている。特に高齢者は、感染者数の多かった10月～12月は就職活動を控え、感染者数の落ち着いた1月以降に再開する動きがみられた。(公的機関)
- 清掃、フロントなどの部門も足りていないが、特に免許が必要とされる調理師が不足していることから、旺盛な宴会需要に対応しきれていない。(宿泊業)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、「食料品」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「娯楽業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。

- 4年度は例年並みの維持更新に加え、前年度からのずれ込み分が発生していた。5年度は既存製品増産のため、老朽化した工場の大規模更新を計画している。(食料品)
- 4年度に新規施設の完成に向けて多額の投資を行った。5年度の設備投資額はその反動により、大幅に減少する見込み。(娯楽業)

■ **観光** 「持ち直しつつある」

- 観光は、来道客数、外国人入国者数がともに前年を上回っており、持ち直しつつある。

- 今期はさっぽろ雪まつりやオホーツク流水観光等による北海道の観光需要が高まり、コロナ禍前と比較しても、販売額が9割近くまで戻った。(旅行業)
- 昨年12月以降、インバウンドの回復が著しく、雪まつり期間は特に好調で、早々に予約で満室になり、新規受付が出来ない日もあった。(宿泊業)
- インバウンドの団体客はコロナ禍前と比較すると半分ほどであり、直行便が再開されない限りは回復は望めない。その一方で、国内の旅行需要は、3月以降、全国旅行支援のほか、マスク着用が緩和されたことや春休みシーズンという要素も加わり、完全に回復したと考えている。(宿泊業)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、「食料品」などが減益となっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」が赤字拡大となっていることなどから、全体では減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「「下降」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査(5年1-3月期)で見ると、企業の景況判断BSIは、全産業では「下降」超となっている。

なお、先行きは、5年4-6月期に「上昇」超へ転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「弱い動きとなっている」

- 住宅建設は、貸家は前年を上回っているものの、持家、分譲住宅は前年を下回っており、弱い動きとなっている。

■ **公共事業** 「前年を下回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額で見ると、第4四半期は、国、独立行政法人等、北海道、市町村いずれも前年を下回っており、全体でも前年を下回っている。

■ **金融** 「貸出金残高は前年を上回る」

■ **企業倒産** 「件数は前年を上回る」

■ **消費者物価** 「前年を上回る」